

課題解決型高度医療人材養成プログラム「健康長寿を育む歯学教育コンソーシアム」平成30年度 外部評価項目

項目 No.	補助事業内容	補助事業の実績	補助事業にかかる具体的な成果	関連資料	評価 (3段階)
1	連携する5大学が個性を生かした学部学生対象コースを新設し、教育コンテンツを開発、アーカイブ化し、e-learningや教員の相互乗り入れにより、シームレス且つボードレスな共同利用を行う。	1)5大学が独自のコースを新設<資料1-1> 2)コア科目5つおよび独自科目9つをe-learningコンテンツとして5大学共有(スマートフォンでも視聴可能)<資料1-1-1,2> 3)新潟大学での講義を東京医科歯科大学に生中継<資料1-3>	各大学においては、本事業の目的・意図である健康長寿社会に貢献できる歯科医師を養成するための、各大学が得意とする分野に重点をおいたカリキュラムを作成し、共有可能なe-learningコンテンツの蓄積ができている。講義動画や講義を生中継することで、対象学生は自学の教育だけでなく他大学の特色ある授業を受講することで、より多くの知識を得ることができた。その結果、多角的な視点を持ち、幅広い観点から歯科医師として健康長寿社会の達成に貢献するための下地ができた。	<資料1-1>授業カレンダー <資料1-2-1>WebClass(e-learningコンテンツ) <資料1-2-2>e-learningコンテンツ一覧 <資料1-3>ライブ授業	A
2	シンポジウム、FD等の共同開催により、学部学生や教員の知識・技能の向上を図り、研修医、大学院生等への卒後教育への波及効果も期待する。	1)H26年度 東京医科歯科大学、H27年度 東北大学、H28年度 日本歯科大学、H29年度 新潟大学、H30年度 東京歯科大学(予定)にてシンポジウム開催<資料2-1> 2)H28年度 5大学合同FD(e-learningコンテンツの質の向上)<資料2-2-1,2> 3)H30年度 5大学合同FD(蓄積したe-learningコンテンツを活用し、教育コースを再構築)<資料2-3> 4)東京医科歯科大学にて、蓄積したe-learningコンテンツを歯科医師臨床研修医教育に活用<資料2-4>	1年に1度開催しているシンポジウムでは事業全体及び各大学の活動報告やパネルディスカッション、また外部より講師をお招きしての講演が実施され、本事業の現状や課題、方向性を共有し、本事業を円滑かつ効果的に進めることができた。H28年度合同FDではe-learningコンテンツの理論的背景及び具体的な方法論を学ぶことで、e-learningコンテンツを利便性、汎用性を向上させ、より教育効果の高いものにすることができた。H30年度合同FDは11/12に開催し、各大学の本事業カリキュラムの再構築が行われる予定である。また、e-learningコンテンツとすることで教育資源を共有可能とすることが本事業の特色の1つであるが、蓄積された教育資源は東京医科歯科大学の卒後教育にも活用されている。	<資料2-1>シンポジウムポスター(H26-29) <資料2-2>H28年度合同FDポスター <資料2-3>H30年度合同FDポスター <資料2-4>WebClass(e-learningコンテンツ)(研修医)	B
3	得られたプロダクト、教育成果をホームページや関連学会等を通じて全国発信・共有化を図る。	1)H27-H30年度 日本歯科医学教育学会学術大会で2題ずつ、H30年度 日本老年歯科医学会学術大会で1題の本事業に関連する発表<資料3-1> 2)H28年度「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革-死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築-」の連携シンポジウムにて、本事業について報告<資料3-2> 3)H26年度 本事業HP公開、H28年度 HPリニューアル<資料3-3> 4)H28年度 本事業Facebookページ公開<資料3-4>	HPやSNSでの情報発信を行う他に、継続的に行っている日本歯科医学教育学会学術大会での発表、日本老年歯科医学会での発表、他の課題解決事業シンポジウムで本事業について報告することにより、本事業の活動について周知することができ、H29年度に実施した本事業外の実教育機関を対象としたアンケート調査でも10大学全てが本事業についてご存知であると回答頂いた<資料7-2>。現状では本事業外の機関とe-learningコンテンツを共有するには至っていないが、最終年度において再構築する各大学の教育コースをパッケージ化し、今後他の教育機関、医療機関への展開を検討している。	<資料3-1>学会発表一覧 <資料3-2>「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革」シンポジウム <資料3-3>健康長寿社会を育む歯学教育コンソーシアムHPTOP画面 <資料3-4>健康長寿社会を育む歯学教育コンソーシアムFacebook画面	B
4	本コースを既存の教育課程に取り込み卒業要件の一部とすることで、超高齢社会における問題の解決に貢献できる歯科医療人材養成を促進する。	1)H27年度 全大学で本事業のコースが実質的に必修化<資料4-1>	本事業の授業は各大学の該当学年の全学生が受講して、各学生は健康長寿をキーワードに構成された講義を受け、超高齢社会における問題の解決に貢献するための多領域の知識を得ることができている。また、背景の異なる5大学の全学生が共通のe-learningコンテンツを受講することにより、同じe-learningコンテンツに対し多くの視点からのフィードバックを得ることができている。そのフィードバックに基づき改善を継続することで、e-learningコンテンツ作成のための方法が確立された<資料4-2>。その結果、将来的に全国展開する際にも有益な、汎用性の高いe-learningコンテンツとすることが可能となった。	<資料4-1>H30年度シラバス <資料4-2>e-learningコンテンツ作成の注意点	A
5	必要時に開催する事業推進委員会の他に、H29年度より3ヶ月毎の定例(TV)会議を開催し、事業を円滑かつ迅速に運営する。	1)H26年度 4回、H27年度 3回、H28年度 1回、H29年度2回の事業推進委員会を開催<資料5-1> 2)H29年度 4回(2回は事業推進委員会内)、H30年度 2回(11月現在)の定例(TV)会議を開催<資料5-2-1,2>	事業推進委員会は必要性が生じた際に開催され、事業運営や内部評価、外部評価、アンケートで明らかとなった課題への解決策が議論され、本事業の改善及び円滑な運営が可能となった。定例(TV)会議は3ヶ月に一度開催され、共通フォーマットの自己評価シートを元に各大学の活動が報告された。互いの活動を共有することで迅速かつ緊密な連携を取ることができるようになった。	<資料5-1>事業推進委員会議事要旨(H26-29) <資料5-2-1>定例(TV)会議事要旨(H28,29) <資料5-2-2>自己評価シートまとめ(H28,29)	B
6	外部評価、内部評価を実施し、事業の改善を行う。	1)H26-30年度 内部評価を実施(H30年度は実施予定)<資料6-1-1> 2)H28年度、H29年度 外部評価(書面式)を実施<資料6-2-1>	内部評価、外部評価を受けることで、ご指摘頂いた項目に応じて事業を改善することができた。<資料6-1-2>、<資料6-2-2>	<資料6-1-1>内部評価結果(H26-29) <資料6-1-2>内部評価対応(H26-29) <資料6-2-1>外部評価結果(H28,29) <資料6-2-2>外部評価対応(H28,29)	A
7	連携校の学生及び他の教育機関を対象とした本事業についてのアンケートを実施し、事業の改善を行う。	1)H26年度 3校、H27-30年度 全大学においてアンケート調査実施(H30年度集計中)<資料7-1> 2)H29年度 他の教育機関を対象としたアンケート調査を実施し、10大学より回答<資料7-2>	受講学生アンケートの結果から事業改善策を検討することができた。特に授業映像の音質、画質に関する問題、映像講義の視聴時の集中力に関する問題など解決を試みている。また、他大学の教育資源を受けられることに意義を感じる学生がいる一方で、本事業に対して意義が分からずモチベーションが上がらない学生がいることが分かり、コース開始時に本事業の意義をよく伝える重要性を知ることができた。他の教育機関対象アンケートの結果からは、本事業のe-learningコンテンツの評価や、求められる教育領域について知ることができた。映像としては東北大学の形式である、プレゼンテーションスライドと講師を2画面で表示する形式が評価が高く、また在宅医療、地域包括ケア、他職種連携、栄養評価、経済学、情報倫理などに関する領域の需要が高いことが分かった。	<資料7-1>受講学生アンケート結果(H26-29) <資料7-2>他の教育機関対象アンケート結果	B

※各項目の評価については以下の3段階で最も当てはまるものをご記入ください。
A・・・計画を上回り進められている。
B・・・ほぼ計画どおりに進められている。
C・・・計画より遅れている。

平野 裕二

<講評>

私はもう教育の現場にいない人間であります。歯科界の教育がどんどん変わっているなと感じるのは、うちに毎年くる研修医ですね。うちは2年間の研修コースで、2年付き合っていると、いろんな場面で今の学生はこんなことを勉強しているだなんて逆に教えて頂いたりします。それで、うちの病院は高齢者の病院なんですが、僕が毎回言うのは、健康長寿を支えるためには本当にもう生まれた時から、より若年者の時から、積み上げないといけないということです。どうしても高齢社会だから高齢者を専門とするのですと言う学生が多い中で、こういった教育で横串をさしていただければ、本当に骨太の教育になっていくのではないかなと言う気がしました。本当に大変なご努力でこまめでなさっていると思います。今後ますます、頑張ってくださいように、微力ながらまたご支援させてもらえることがあればと思います。本当にありがとうございました。

課題解決型高度医療人材養成プログラム「健康長寿を育む歯学教育コンソーシアム」平成30年度 外部評価項目

項目 No.	補助事業内容	補助事業の実績	補助事業にかかる具体的な成果	関連資料	評価 (3段階)
1	連携する5大学が個性を生かした学部学生対象コースを新設し、教育コンテンツを開発、アーカイブ化し、e-learningや教員の相互乗り入れにより、シームレス且つボーダレスな共同利用を行う。	1)5大学が独自のコースを新設<資料1-1> 2)コア科目5つおよび独自科目9つをe-learningコンテンツとして5大学共有(スマートフォンでも視聴可能)<資料1-1-1,2> 3)新潟大学での講義を東京医科歯科大学に生中継<資料1-3>	各大学においては、本事業の目的・意図である健康長寿社会に貢献できる歯科医師を養成するための、各大学が得意とする分野に重点をおいたカリキュラムを作成し、共有可能なe-learningコンテンツの蓄積ができている。講義動画や講義を生中継することで、対象学生は自学の教育だけでなく他大学の特色ある授業を受講することで、より多くの知識を得ることができた。その結果、多角的な視点を持ち、幅広い観点から歯科医師として健康長寿社会の達成に貢献するための下地ができた。	<資料1-1>授業カレンダー <資料1-2-1>WebClass(e-learningコンテンツ) <資料1-2-2>e-learningコンテンツ一覧 <資料1-3>ライブ授業	B
2	シンポジウム、FD等の共同開催により、学部学生や教員の知識・技能の向上を図り、研修医、大学院生等への卒後教育への波及効果も期待する。	1)H26年度 東京医科歯科大学、H27年度 東北大学、H28年度 日本歯科大学、H29年度 新潟大学、H30年度 東京歯科大学(予定)にてシンポジウム開催<資料2-1> 2)H28年度 5大学合同FD(e-learningコンテンツの質の向上)<資料2-2-1,2> 3)H30年度 5大学合同FD(蓄積したe-learningコンテンツを活用し、教育コースを再構築)<資料2-3> 4)東京医科歯科大学にて、蓄積したe-learningコンテンツを歯科医師臨床研修医教育に活用<資料2-4>	1年に1度開催しているシンポジウムでは事業全体及び各大学の活動報告やパネルディスカッション、また外部より講師をお招きしての講演が実施され、本事業の現状や課題、方向性を共有し、本事業を円滑かつ効果的に進めることができた。H28年度合同FDではe-learningコンテンツの理論的背景及び具体的な方法論を学ぶことで、e-learningコンテンツを利便性、汎用性を向上させ、より教育効果の高いものにすることができた。H30年度合同FDは11/12に開催し、各大学の本事業カリキュラムの再構築が行われる予定である。また、e-learningコンテンツとすることで教育資源を共有可能とすることが本事業の特色の1つであるが、蓄積された教育資源は東京医科歯科大学の卒後教育にも活用されている。	<資料2-1>シンポジウムポスター(H26-29) <資料2-2>H28年度合同FDポスター <資料2-3>H30年度合同FDポスター <資料2-4>WebClass(e-learningコンテンツ)(研修医)	B
3	得られたプロダクト、教育成果をホームページや関連学会等を通じて全国発信・共有化を図る。	1)H27-H30年度 日本歯科医学教育学会学術大会で2題ずつ、H30年度 日本老年歯科医学会学術大会で1題の本事業に関連する発表<資料3-1> 2)H28年度「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革-死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築-」の連携シンポジウムにて、本事業について報告<資料3-2> 3)H26年度 本事業HP公開、H28年度 HPリニューアル<資料3-3> 4)H28年度 本事業Facebookページ公開<資料3-4>	HPやSNSでの情報発信を行う他に、継続的に行っている日本歯科医学教育学会学術大会での発表、日本老年歯科医学会での発表、他の課題解決事業シンポジウムで本事業について報告することにより、本事業の活動について周知することができ、H29年度に実施した本事業外の教育機関を対象としたアンケート調査でも10大学全てが本事業についてご存知であると回答頂いた<資料7-2>。現状では本事業外の機関とe-learningコンテンツを共有するには至っていないが、最終年度において再構築する各大学の教育コースをパッケージ化し、今後他の教育機関、医療機関への展開を検討している。	<資料3-1>学会発表一覧 <資料3-2>「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革」シンポジウム <資料3-3>健康長寿社会を育む歯学教育コンソーシアムHPTOP画面 <資料3-4>健康長寿社会を育む歯学教育コンソーシアムFacebook画面	B
4	本コースを既存の教育課程に取り込み卒業要件の一部とすることで、超高齢社会における問題の解決に貢献できる歯科医療人養成を促進する。	1)H27年度 全大学で本事業のコースが実質的に必修化<資料4-1>	本事業の授業は各大学の該当学年の全学生が受講して、各学生は健康長寿をキーワードに構成された講義を受け、超高齢社会における問題の解決に貢献するための多領域の知識を得ることができている。また、背景の異なる5大学の全学生が共通のe-learningコンテンツを受講することにより、同じe-learningコンテンツに対し多くの視点からのフィードバックを得ることができている。そのフィードバックに基づき改善を継続することで、e-learningコンテンツ作成のための方法が確立された<資料4-2>。その結果、将来的に全国展開する際にも有益な、汎用性の高いe-learningコンテンツとすることが可能となった。	<資料4-1>H30年度シラバス <資料4-2>e-learningコンテンツ作成の注意点	B
5	必要時に開催する事業推進委員会の他に、H29年度より3ヶ月毎の定例(TV)会議を開催し、事業を円滑かつ迅速に運営する。	1)H26年度 4回、H27年度 3回、H28年度 1回、H29年度2回の事業推進委員会を開催<資料5-1> 2)H29年度 4回(2回は事業推進委員会内)、H30年度 2回(11月現在)の定例(TV)会議を開催<資料5-2-1,2>	事業推進委員会は必要性が生じた際に開催され、事業運営や内部評価、外部評価、アンケートで明らかとなった課題への解決策が議論され、本事業の改善及び円滑な運営が可能となった。定例(TV)会議は3ヶ月に一度開催され、共通フォーマットの自己評価シートを元に各大学の活動が報告された。互いの活動を共有することで迅速かつ緊密な連携を取ることができるようになった。	<資料5-1>事業推進委員会議事要旨(H26-29) <資料5-2-1>定例(TV)会議事要旨(H28,29) <資料5-2-2>自己評価シートまとめ(H28,29)	A
6	外部評価、内部評価を実施し、事業の改善を行う。	1)H26-30年度 内部評価を実施(H30年度は実施予定)<資料6-1-1> 2)H28年度、H29年度 外部評価(書面式)を実施<資料6-2-1>	内部評価、外部評価を受けることで、ご指摘頂いた項目に応じて事業を改善することができた。<資料6-1-2>、<資料6-2-2>	<資料6-1-1>内部評価結果(H26-29) <資料6-1-2>内部評価対応(H26-29) <資料6-2-1>外部評価結果(H28,29) <資料6-2-2>外部評価対応(H28,29)	A
7	連携校の学生及び他の教育機関を対象とした本事業についてのアンケートを実施し、事業の改善を行う。	1)H26年度 3校、H27-30年度 全大学においてアンケート調査実施(H30年度集計中)<資料7-1> 2)H29年度 他の教育機関を対象としたアンケート調査を実施し、10大学より回答<資料7-2>	受講学生アンケートの結果から事業改善策を検討することができた。特に授業映像の音質、画質に関する問題、映像講義の視聴時の集中力に関する問題など解決を試みている。また、他大学の教育資源を受けられることに意義を感じる学生がいる一方で、本事業に対して意義が分からずモチベーションが上がらない学生がいることが分かり、コース開始時に本事業の意義をよく伝える重要性を知ることができた。他の教育機関対象アンケートの結果からは、本事業のe-learningコンテンツの評価や、求められる教育領域について知ることができた。映像としては東北大学の形式である、プレゼンテーションスライドと講師を2画面で表示する形式が評価が高く、また在宅医療、地域包括ケア、他職種連携、栄養評価、経済学、情報倫理などに関する領域の需要が高いことが分かった。	<資料7-1>受講学生アンケート結果(H26-29) <資料7-2>他の教育機関対象アンケート結果	B

※各項目の評価については以下の3段階で最も当てはまるものをご記入ください。
A・・・計画を上回り進められている。
B・・・ほぼ計画どおりに進められている。
C・・・計画より遅れている。

佐藤 裕二

<講評>

非常に势力的な取り組みであり、評価に出て初めて分かったこともありました。文書だけで評価資料があってもなかなか難しいところがある、ディスカッションできたことにより、単なる統合講義というわけではなく各大学で取り組んでいることが具体的に分かり、より意義が理解できました。細かいことを言いましたが細かいことはそれほど問題ではないので、大筋として非常に良い試みです。ぜひ継続して頂くと、e-learningのコンテンツは更新していかなければならないのが大変だと思いますが、それをやって頂いて、日本の歯科医学教育の先端を導いていただければと思います。本日はすばらしい機会に招いて頂いて、ありがとうございました。

項目 No.	補助事業内容	補助事業の実績	補助事業にかかる具体的な成果	関連資料	評価 (3段階)
1	連携する5大学が個性を生かした学部学生対象コースを新設し、教育コンテンツを開発、アーカイブ化し、e-learningや教員の相互乗り入れにより、シームレス且つボーダレスな共同利用を行う。	1) 5大学が独自のコースを新設<資料1-1> 2) コア科目5つおよび独自科目9つをe-learningコンテンツとして5大学共有(スマートフォンでも視聴可能)<資料1-1-1,2> 3) 新潟大学での講義を東京医科歯科大学に生中継<資料1-3>	各大学においては、本事業の目的・意図である健康長寿社会に貢献できる歯科医師を養成するための、各大学が得意とする分野に重点をおいたカリキュラムを作成し、共有可能なe-learningコンテンツの蓄積ができている。講義動画や講義を生中継することで、対象学生は自学の教育だけでなく他大学の特色ある授業を受講することで、より多くの知識を得ることができた。その結果、多角的な視点を持ち、幅広い観点から歯科医師として健康長寿社会の達成に貢献するための下地ができた。	<資料1-1>授業カレンダー <資料1-2-1>WebClass(e-learningコンテンツ) <資料1-2-2>e-learningコンテンツ一覧 <資料1-3>ライブ授業	A
2	シンポジウム、FD等の共同開催により、学部学生や教員の知識・技能の向上を図り、研修医、大学院生等への卒後教育への波及効果も期待する。	1) H26年度 東京医科歯科大学、H27年度 東北大学、H28年度 日本歯科大学、H29年度 新潟大学、H30年度 東京歯科大学(予定)にてシンポジウム開催<資料2-1> 2) H28年度 5大学合同FD(e-learningコンテンツの質の向上)<資料2-2-1,2> 3) H30年度 5大学合同FD(蓄積したe-learningコンテンツを活用し、教育コースを再構築)<資料2-3> 4) 東京医科歯科大学にて、蓄積したe-learningコンテンツを歯科医師臨床研修医教育に活用<資料2-4>	1年に1度開催しているシンポジウムでは事業全体及び各大学の活動報告やパネルディスカッション、また外部より講師をお招きしての講演が実施され、本事業の現状や課題、方向性を共有し、本事業を円滑かつ効果的に進めることができた。H28年度合同FDではe-learningコンテンツの理論的背景及び具体的な方法論を学ぶことで、e-learningコンテンツを利便性、汎用性を向上させ、より教育効果の高いものにすることができた。H30年度合同FDは11/12に開催し、各大学の本事業カリキュラムの再構築が行われる予定である。また、e-learningコンテンツとすることで教育資源を共有可能とすることが本事業の特色の1つであるが、蓄積された教育資源は東京医科歯科大学の卒後教育にも活用されている。	<資料2-1>シンポジウムポスター(H26-29) <資料2-2-1>H28年度合同FDポスター <資料2-2-2>e-learningコンテンツ作成の注意点 <資料2-3>H30年度合同FDポスター <資料2-4>WebClass(e-learningコンテンツ)(研修医)	A
3	得られたプロダクト、教育成果をホームページや関連学会等を通じて全国発信・共有化を図る。	1) H27-H30年度 日本歯科医学教育学会学術大会で2題ずつ、H30年度 日本老年歯科医学会学術大会で1題の本事業に関連する発表<資料3-1> 2) H28年度「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革-死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築-」の連携シンポジウムにて、本事業について報告<資料3-2> 3) H26年度 本事業HP公開、H28年度 HPリニューアル<資料3-3> 4) H28年度 本事業Facebookページ公開<資料3-4>	HPやSNSでの情報発信を行う他に、継続的に行っている日本歯科医学教育学会学術大会での発表、日本老年歯科医学会での発表、他の課題解決事業シンポジウムで本事業について報告することにより、本事業の活動について周知することができ、H29年度に実施した本事業外の教育機関を対象としたアンケート調査でも10大学全てが本事業についてご存知であると回答頂いた<資料7-2>。現状では本事業外の機関とe-learningコンテンツを共有するには至っていないが、最終年度において再構築する各大学の教育コースをパッケージ化し、今後他の教育機関、医療機関への展開を検討している。	<資料3-1>学会発表一覧 <資料3-2>「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革」シンポジウム <資料3-3>健康長寿社会を育む歯学教育コンソーシアムHPTOP画面 <資料3-4>健康長寿社会を育む歯学教育コンソーシアムFacebook画面	A
4	本コースを既存の教育課程に取り込み卒業要件の一部とすることで、超高齢社会における問題の解決に貢献できる歯科医療人材養成を促進する。	1) H27年度 全大学で本事業のコースが実質的に必修化<資料4-1>	本事業の授業は各大学の該当学年の全学生が受講して、各学生は健康長寿をキーワードに構成された講義を受け、超高齢社会における問題の解決に貢献するための多領域の知識を得ることができている。また、背景の異なる5大学の全学生が共通のe-learningコンテンツを受講することにより、同じe-learningコンテンツに対し多くの視点からのフィードバックを得ることができている。そのフィードバックに基づき改善を継続することで、e-learningコンテンツ作成のための方法が確立された<資料4-2>。その結果、将来的に全国展開する際にも有益な、汎用性の高いe-learningコンテンツとすることが可能となった。	<資料4-1>H30年度シラバス <資料4-2>e-learningコンテンツ作成の注意点	B
5	必要時に開催する事業推進委員会の他に、H29年度より3ヶ月毎の定例(TV)会議を開催し、事業を円滑かつ迅速に運営する。	1) H26年度 4回、H27年度 3回、H28年度 1回、H29年度 2回の事業推進委員会を開催<資料5-1> 2) H29年度 4回(2回は事業推進委員会内)、H30年度 2回(11月現在)の定例(TV)会議を開催<資料5-2-1,2>	事業推進委員会は必要性が生じた際に開催され、事業運営や内部評価、外部評価、アンケートで明らかとなった課題への解決策が議論され、本事業の改善及び円滑な運営が可能となった。定例(TV)会議は3ヶ月に一度開催され、共通フォーマットの自己評価シートを元に各大学の活動が報告された。互いの活動を共有することで迅速かつ緊密な連携を取ることができるようになった。	<資料5-1>事業推進委員会議事要旨(H26-29) <資料5-2-1>定例(TV)会議事要旨(H28,29) <資料5-2-2>自己評価シートまとめ(H28,29)	B
6	外部評価、内部評価を実施し、事業の改善を行う。	1) H26-30年度 内部評価を実施(H30年度は実施予定)<資料6-1-1> 2) H28年度、H29年度 外部評価(書面式)を実施<資料6-2-1>	内部評価、外部評価を受けることで、ご指摘頂いた項目に応じて事業を改善することができた。<資料6-1-2>、<資料6-2-2>	<資料6-1-1>内部評価結果(H26-29) <資料6-1-2>内部評価対応(H26-29) <資料6-2-1>外部評価結果(H28,29) <資料6-2-2>外部評価対応(H28,29)	B
7	連携校の学生及び他の教育機関を対象とした本事業についてのアンケートを実施し、事業の改善を行う。	1) H26年度 3校、H27-30年度 全大学においてアンケート調査実施(H30年度集計中)<資料7-1> 2) H29年度 他の教育機関を対象としたアンケート調査を実施し、10大学より回答<資料7-2>	受講学生アンケートの結果から事業改善策を検討することができた。特に授業映像の音質、画質に関する問題、映像講義の視聴時の集中力に関する問題など解決を試みている。また、他大学の教育資源を受けられることに意義を感じる学生がいる一方で、本事業に対して意義が分からずモチベーションが上がらない学生がいることが分かり、コース開始時に本事業の意義をよく伝える重要性を知ることができた。 他の教育機関対象アンケートの結果からは、本事業のe-learningコンテンツの評価や、求められる教育領域について知ることができた。映像としては東北大学の形式である、プレゼンテーションスライドと講師を2画面で表示する形式が評価が高く、また在宅医療、地域包括ケア、他職種連携、栄養評価、経済学、情報倫理などに関する領域の需要が高いことが分かった。	<資料7-1>受講学生アンケート結果(H26-29) <資料7-2>他の教育機関対象アンケート結果	B

※各項目の評価については以下の3段階で最も当てはまるものをご記入ください。

- A・・・計画を上回り進められている。
- B・・・ほぼ計画どおりに進められている。
- C・・・計画より遅れている。

＜講評＞

東京医科歯科大学を中心とした本課題解決型高度医療人材養成プログラムの実施においては、「健康長寿を育む歯学教育」の確立という目的に向かって多大な努力がなされ、5年間の事業が完遂されつつあることについて高く評価するところである。外部評価を、もう一つの採択グループの事業実施責任者である窪木にさせて頂いたことも、この両プロジェクトが情報共有をしながら、切磋琢磨することに結実するという意味で高く評価できると言える。また、評価項目の4にあるように、全大学で本事業のコースが実質的に必須化されたという点はすばらしい成果であると言えるが、全学生(学年別)に必須化されている単位数が明確でない点は今後の報告書に反映されるべきと考えている。本事業により、各大学の歯学生が、超高齢社会に適応できる新しい歯科医師としての能力を身につけることができているかどうかを評価され、各大学のアウトカム基盤型のカリキュラムに帰結するべく、持続性を持って活動されることを心より期待したい。